

# 在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年11月

みよし広域連合



# 目次

- 1 基本調査項目（A票） [P. 1]
  - (1) 世帯類型 [P. 1]
  - (2) 家族等による介護の頻度 [P. 2]
  - (3) 主な介護者の年齢 [P. 2]
  - (4) 介護のための離職の有無 [P. 3]
  - (5) 施設等検討の状況 [P. 4]
- 2 主な介護者様用の調査項目（B票） [P. 5]
  - (1) 主な介護者の勤務形態 [P. 5]
  - (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況 [P. 6]
  - (3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 [P. 7]
  - (4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 [P. 8]
- 3 要介護認定データ [P. 9]
  - (1) 年齢 [P. 9]
  - (2) 性別 [P. 9]
  - (3) 二次判定結果（要介護度） [P. 10]
  - (4) サービス利用の組み合わせ [P. 10]
  - (5) 訪問系サービスの合計利用回数 [P. 11]
  - (6) 通所系サービスの合計利用回数 [P. 12]
  - (7) 短期系サービスの合計利用回数 [P. 13]
  - (8) 障害高齢者の日常生活自立度 [P. 13]
  - (9) 認知症高齢者の日常生活自立度 [P. 14]

## 調査概要

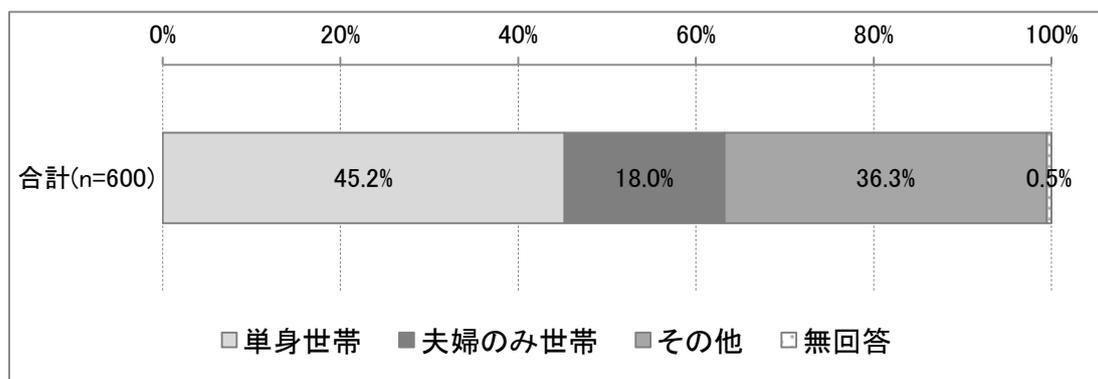
対象者	在宅で生活をしている要支援・要介護者のうち、令和4年11月1日以降に要介護認定の更新申請・区分変更申請を行った方
実施期間	令和4年11月1日（火）～令和5年5月10日（水）
実施方法	認定調査員による聞き取り調査
有効回答数 (有効回収率)	600件（100.0%）

### 1 基本調査項目（A票）

#### (1) 世帯類型

「単身世帯」の割合が最も高く45.2%となっている。次いで、「その他（36.3%）」、「夫婦のみ世帯（18.0%）」となっている。

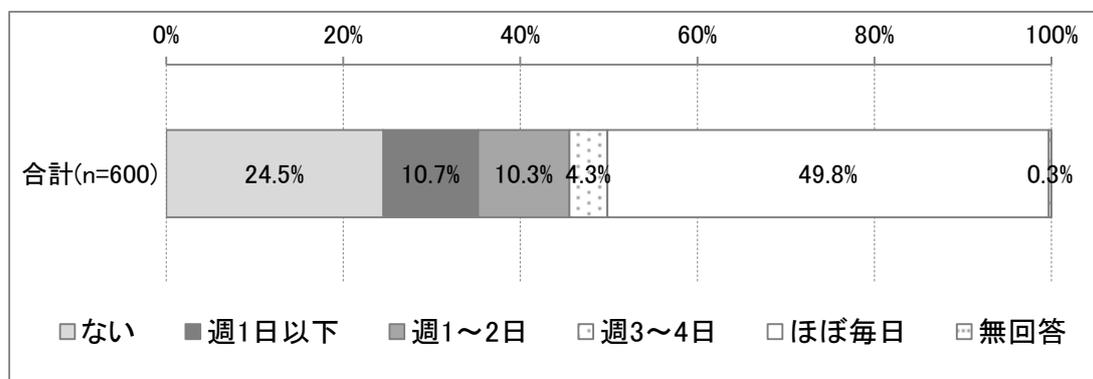
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



## (2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 49.8%となっている。次いで、「ない (24.5%)」、「週1日以下 (10.7%)」となっている。

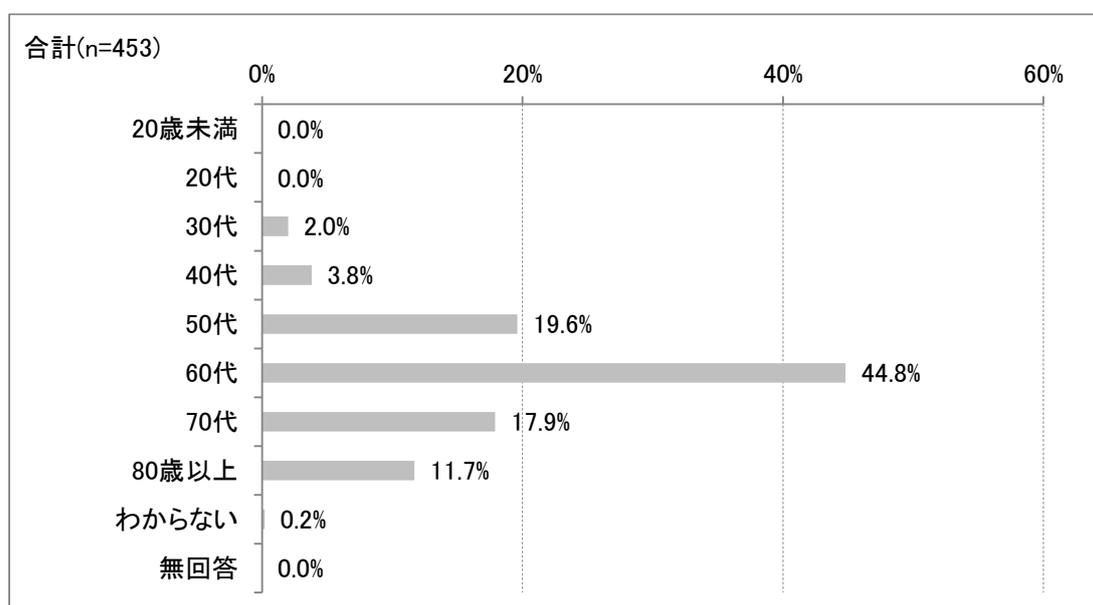
図表 1-2 家族等による介護の頻度 (単数回答)



## (3) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 44.8%となっている。次いで、「50代 (19.6%)」、「70代 (17.9%)」となっている。

図表 1-5 主な介護者の年齢 (単数回答)

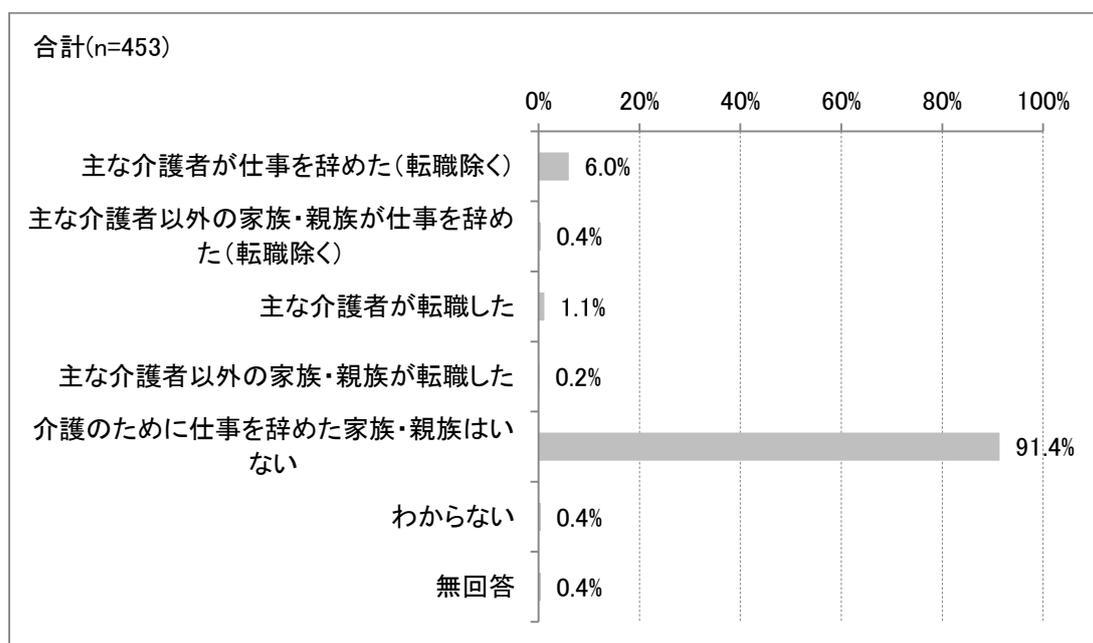


#### (4) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 91.4%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（6.0%）」、「主な介護者が転職した（1.1%）」となっている。

「主な介護者が仕事をやめた（転職除く）」の年齢の内訳として、30代は1名、40代は2名、50代は3名、60代は16名、70代は5名の合計27名となっている。

図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）

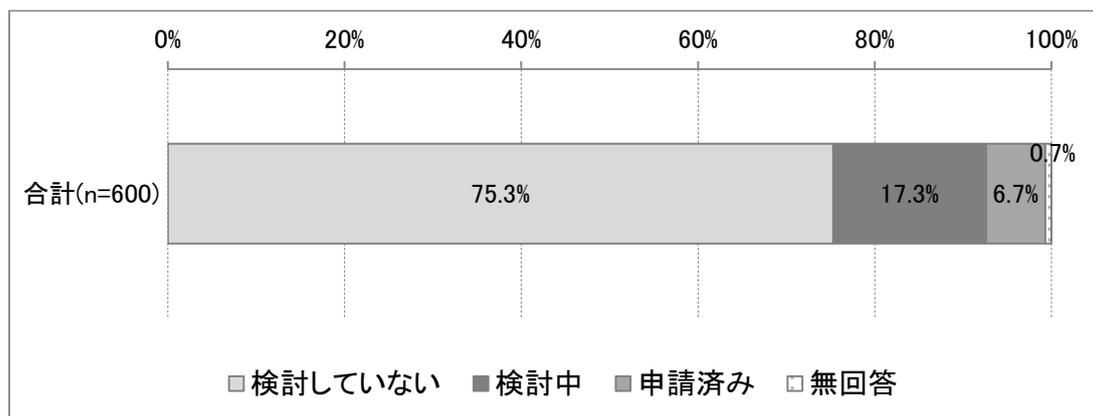


## (5) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 75.3%となっている。次いで、「検討中 (17.3%)」、「申請済み (6.7%)」となっている。

「申請済み」の介護度の内訳として、要支援 1 は 6 名、要支援 2 は 13 名、要介護 1 は 20 名、要介護 2 は 31 名、要介護 3 は 24 名、要介護 4 は 7 名、要介護 5 は 3 名の合計 104 名となっている。

図表 1-10 施設等検討の状況 (単数回答)

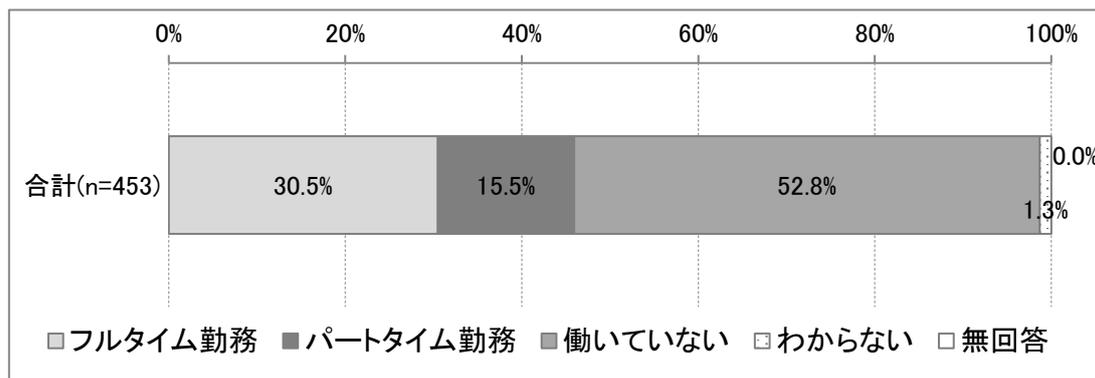


## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 52.8%となっている。次いで、「フルタイム勤務 (30.5%)」、「パートタイム勤務 (15.5%)」となっている。

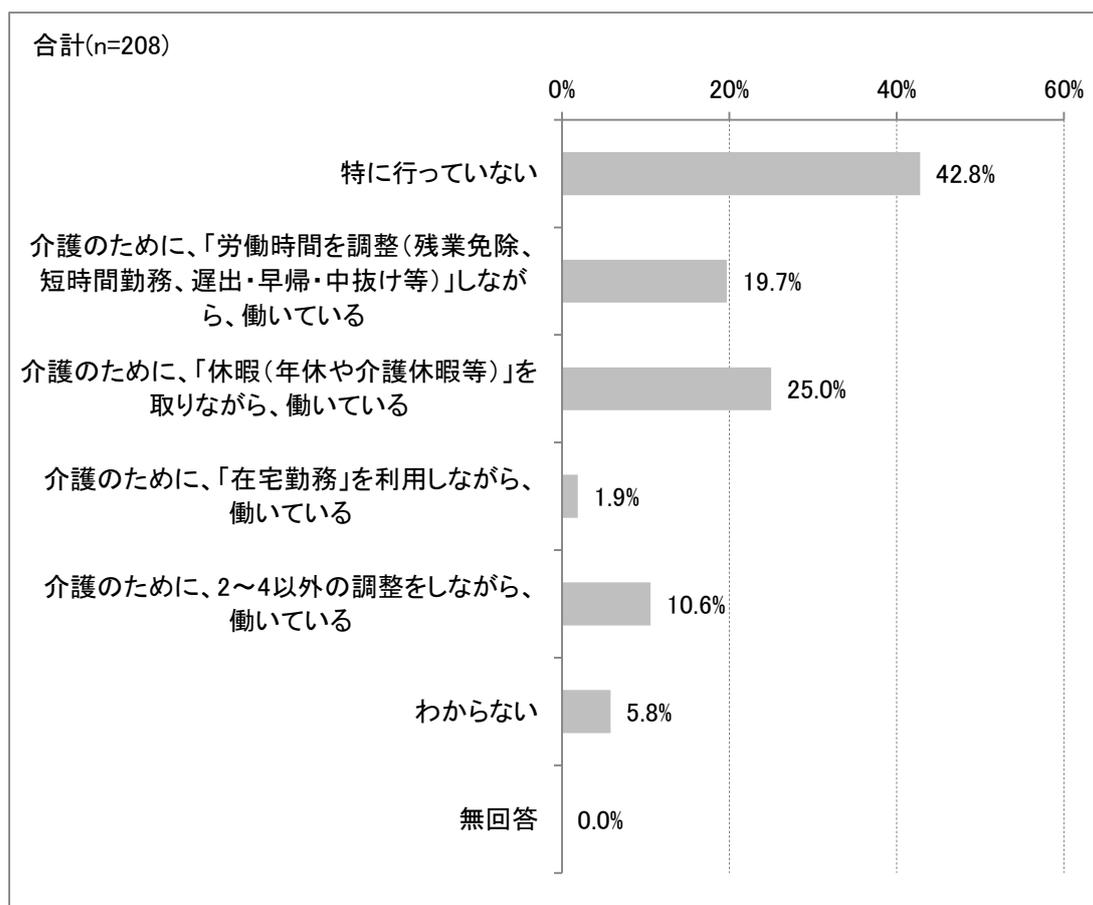
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



## (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 42.8%となっている。次いで、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（25.0%）」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（19.7%）」となっている。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

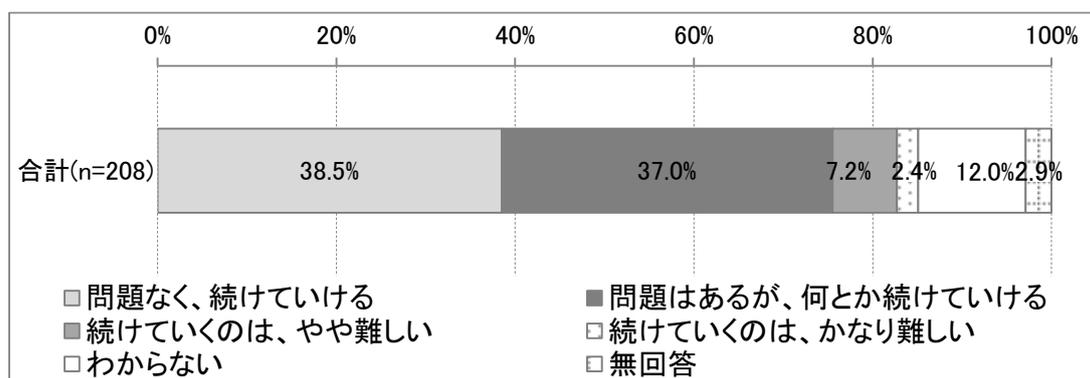


### (3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題なく、続けていける」の割合が最も高く 38.5%となっている。次いで、「問題はあるが、何とか続けていける (37.0%)」、「わからない (12.0%)」となっている。

「問題なく、やり続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の介護度の割合は軽度者と中度者が同等となっている。また、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」では中度者・重度者だけでなく軽度者も含まれていた。

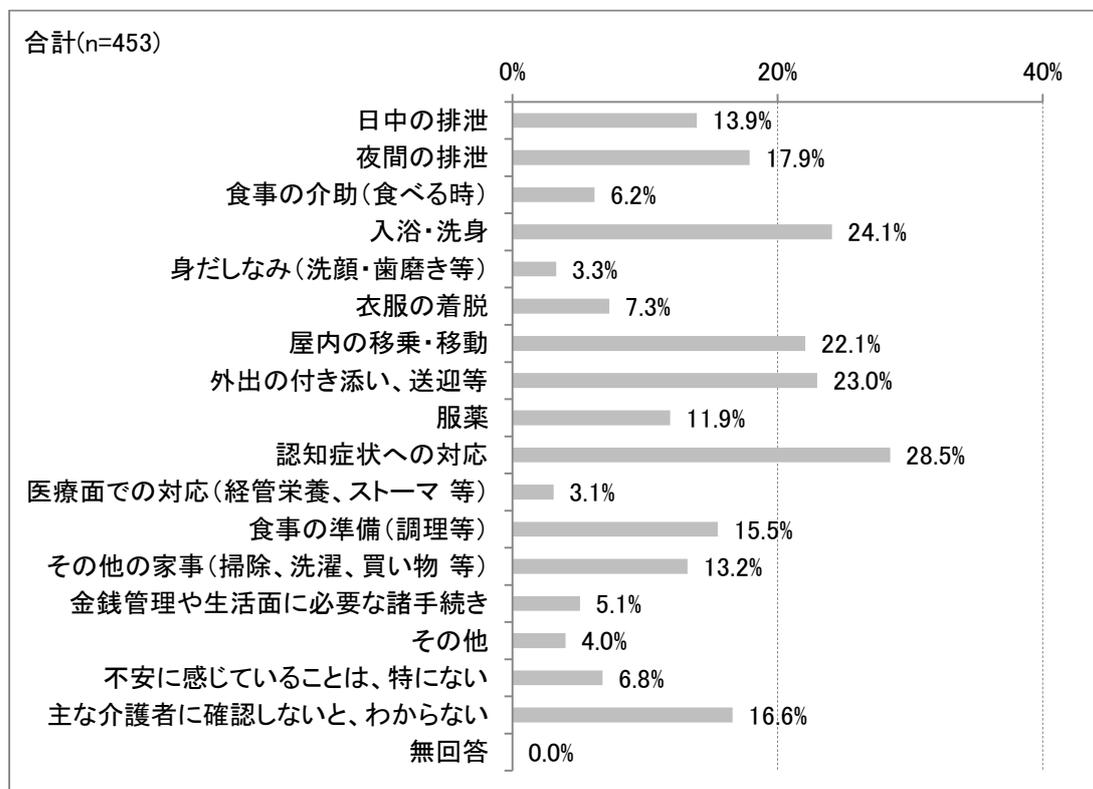
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



#### (4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く 28.5%となっている。次いで、「入浴・洗身 (24.1%)」、「外出の付き添い、送迎等 (23.0%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 (複数回答)

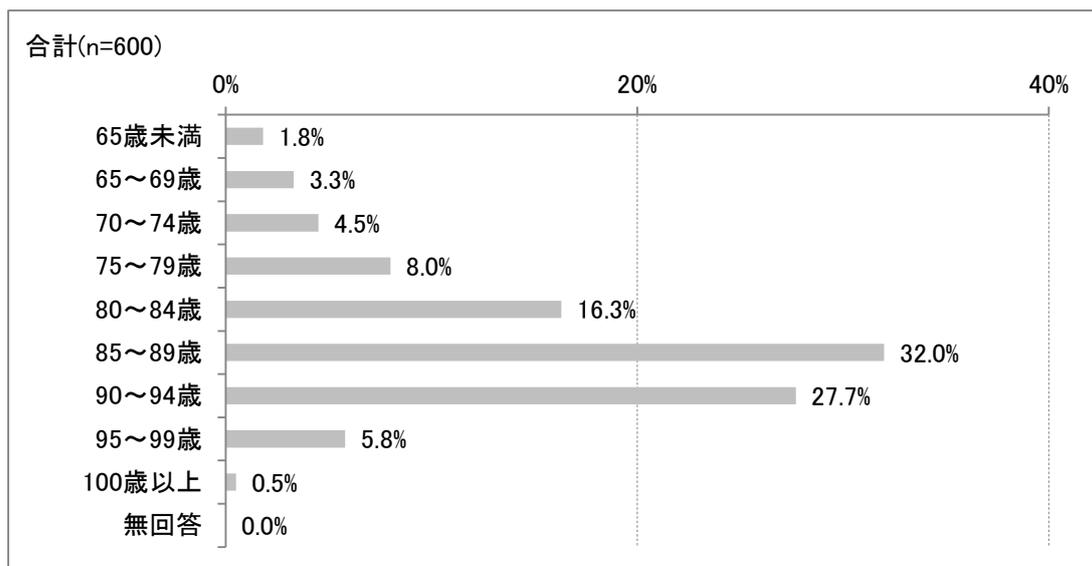


### 3 要介護認定データ

#### (1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く32.0%となっている。次いで、「90～94歳（27.7%）」、「80～84歳（16.3%）」となっている。

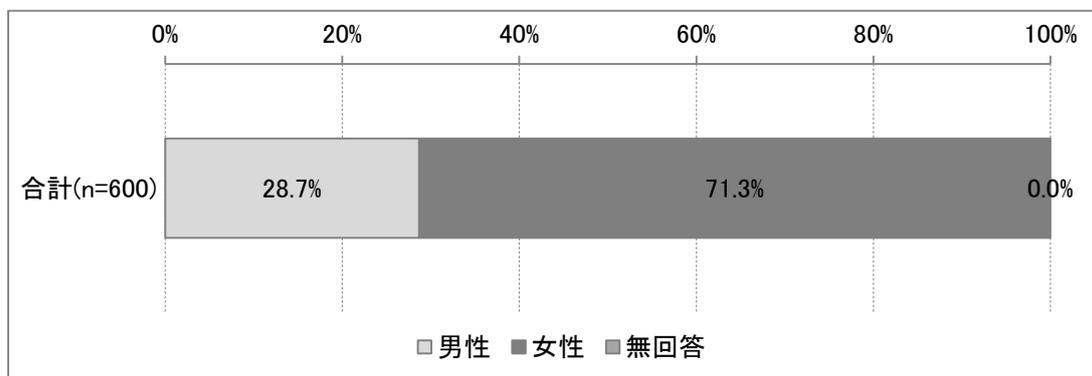
図表 3-1 年齢



#### (2) 性別

「女性」の割合が最も高く71.3%となっている。次いで、「男性（28.7%）」となっている。

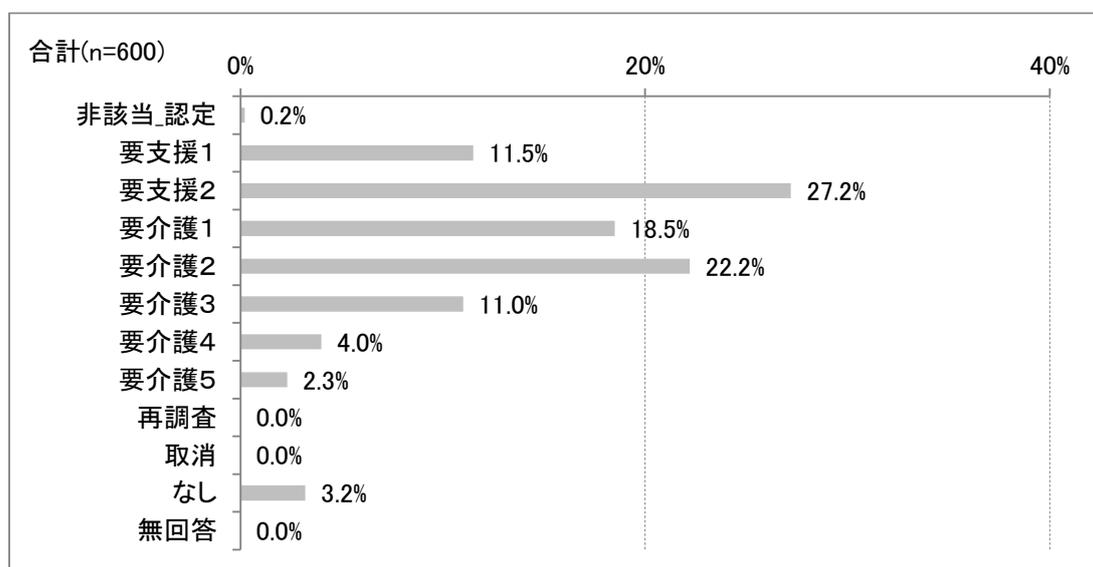
図表 3-2 性別



### (3) 二次判定結果（要介護度）

「要支援2」の割合が最も高く27.2%となっている。次いで、「要介護2（22.2%）」、「要介護1（18.5%）」となっている。

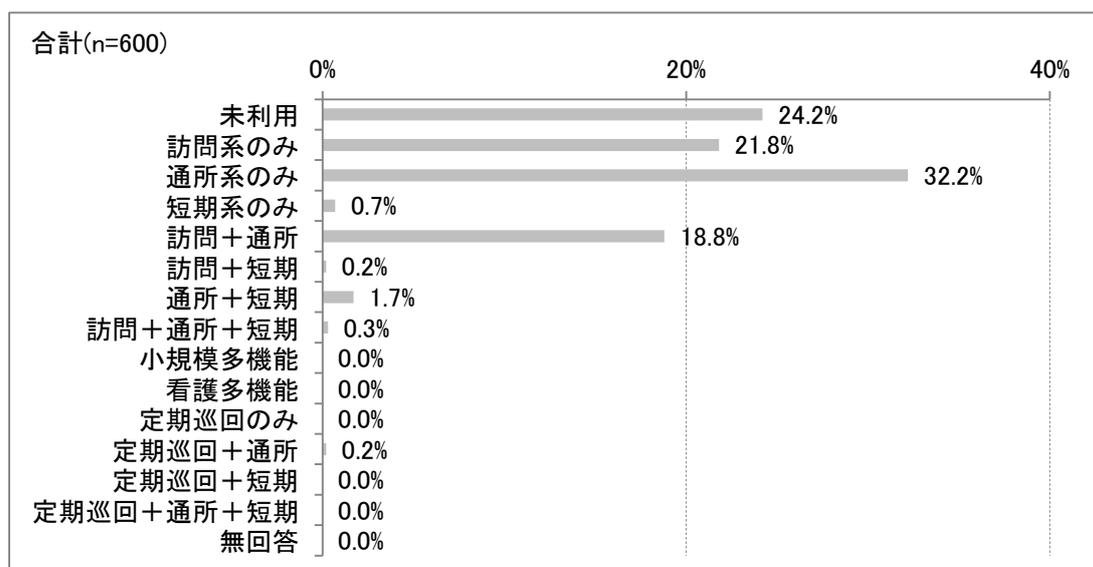
図表 3-3 二次判定結果



### (4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く32.2%となっている。次いで、「未利用（24.2%）」、「訪問系のみ（21.8%）」となっている。

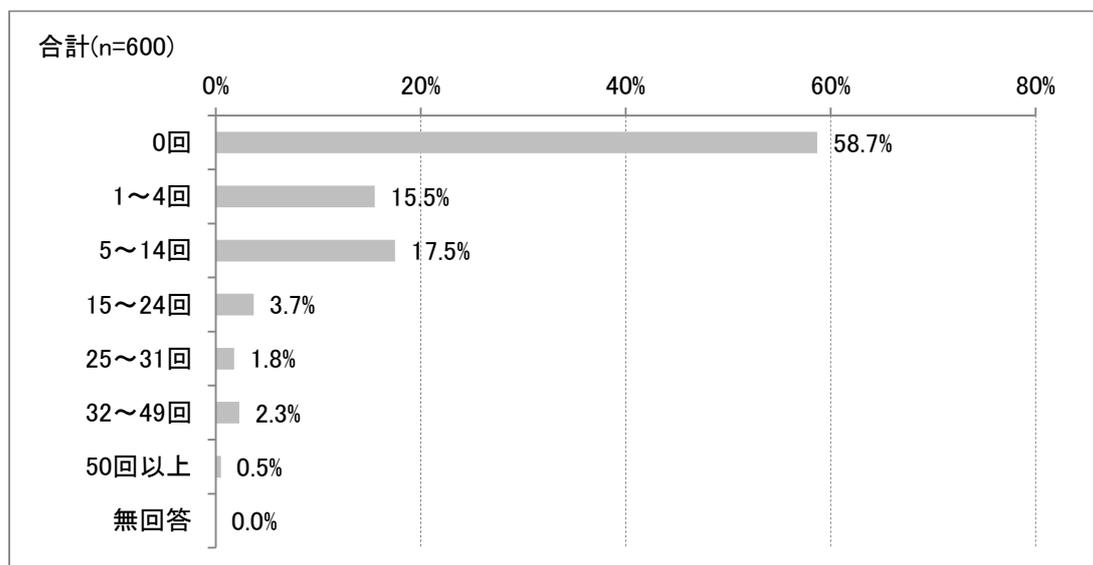
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く58.7%となっている。次いで、「5～14回（17.5%）」、「1～4回（15.5%）」となっている。

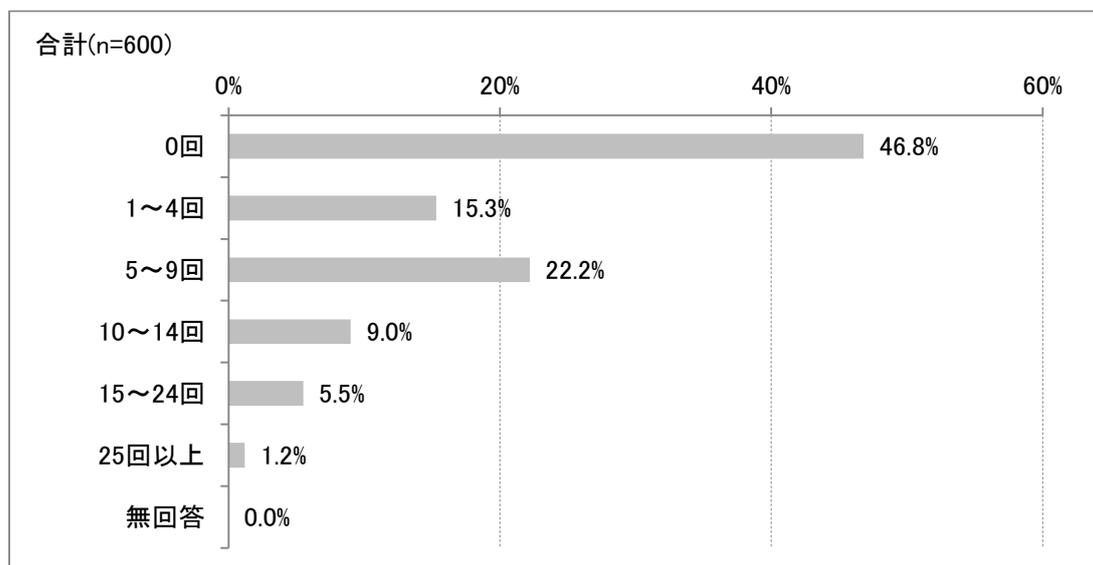
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



## (6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く46.8%となっている。次いで、「5～9回(22.2%)」、「1～4回(15.3%)」となっている。

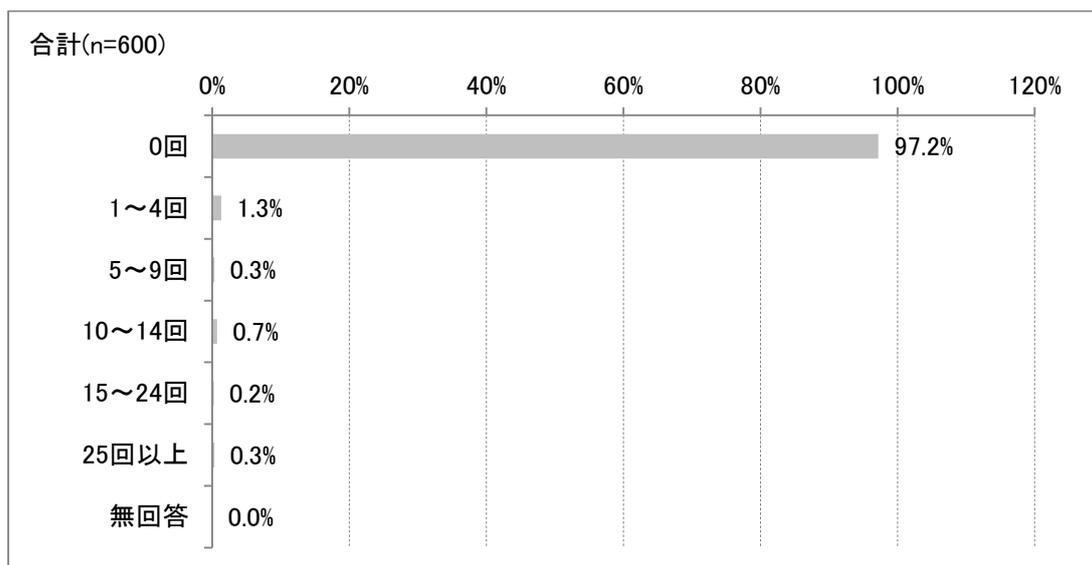
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



### (7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く97.2%となっている。次いで、「1～4回（1.3%）」、「10～14回（0.7%）」となっている。

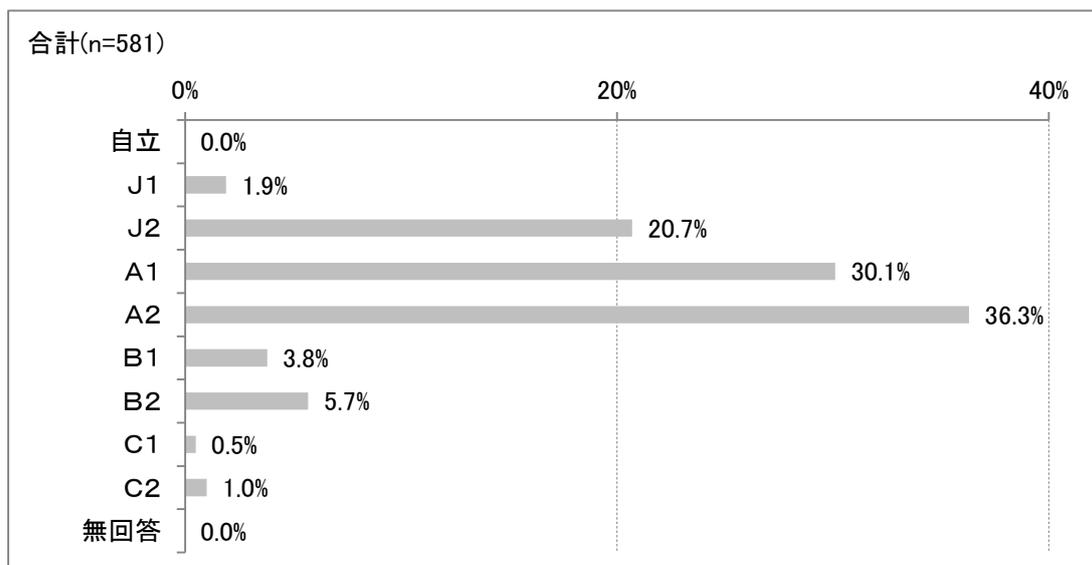
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



### (8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A2」の割合が最も高く36.3%となっている。次いで、「A1（30.1%）」、「J2（20.7%）」となっている。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く 28.2%となっている。次いで、「II b (23.2%)」、「I (21.9%)」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

